

1. プログラム



平成 27 年度 「医療安全能力向上のための効果的教育・トレーニングプログラム開発事業」

International Forum on
Quality & Safety in Healthcare
2014, Paris
Remote Participation Program

Strive for Excellence.
Seek Value.
Spark a Revolution.

国際医療の質・安全学会 2014 第 5 回 遠隔地参加プログラム

卓越さの追求・価値の創造・変革の加速

開催日：2015 年 6 月 26 日 (金)

会 場：大阪大学コンベンションセンター（大阪府吹田市山田丘 1-1）

国際医療の質・安全学会2014 第5回 遠隔地参加プログラムは、「これからの医療安全に必要な新しい視点」をテーマとして開催します。イギリスの心理学者であり医療安全の大家であるヴィンセント博士による特別講演を中心に、横浜市立大学救急医学の中村京太氏を特別コメンテーターにお迎えし、2つの新しい視点である「Patient Journey」「医療における多様なリスク管理モデル」について、参加者の皆様と共に理解を深めたいと考えています。



演題：The Future of Patient Safety

Seeing safety through the patient's eyes

患者安全の未来 ～患者の視点から安全を考える～

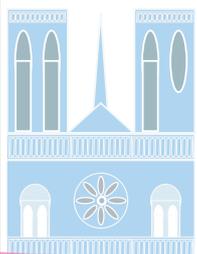
演者：Charles Vincent, Ph.D. チャールズ・ヴィンセント博士

Emeritus Professor of the Clinical Safety Research Unit, Faculty of Medicine,
Department of Surgery & Cancer, Imperial College London
National Institute of Health Research (NIHR) Senior Investigator
Professorial fellow in the Department of Experimental Psychology, University of Oxford
臨床心理学者、インペリアル・カレッジ・ロンドン名誉教授、NIHRシニア研究員、
オックスフォード大学実験心理学講座専門研究員

臨床心理学者としてNHS（国民保健サービス）で数年間勤務し患者安全について研究。ロンドン大学心理学講座の教授に就任後、1995年に同講座内に Clinical Risk Unit を創設。2002年からインペリアル・カレッジ・ロンドン医学部外科・腫瘍学講座 Clinical Safety Research 教授。1999年～2003年英国健康改善委員会コミッショナー。多くの事故調査や委員会における患者安全に関するアドバイザー。2007年から2013年まで患者安全・医療の質研究所の所長。2014年から同研究所シニア研究員、オックスフォード大学実験心理学講座専門研究員。

研究内容は、「有害事象の原因」「医療事故が患者とスタッフに与える影響」「医療安全向上のための方策」「手術室におけるチームワーク力の測定とトレーニング方法開発」に加え、近年は「地域医療における患者安全改善策」「安全の測定モニタリング方法の開発」「医療における規制の影響」等があり、患者と医療者双方の視点から患者安全を深く洞察した研究を意欲的に続けている。

※ 講演はビデオ映像による紹介となります（日本語訳あり）



BMJ

